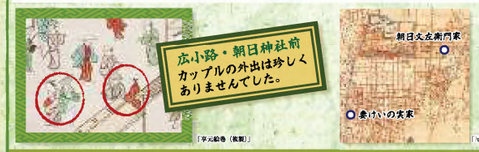
『鵜鷺籠中記』

尾張藩士・朝日文左衛門重棄が、元禄4年(1691)から享保2年(1717)まで記した日記です。
当時の名古屋城下の様子がおもしろおかしく書かれています。

『鵜鷺籠中記』によると、朝日文左衛門は広小路、本町通を通って、大須で芝居見物をしたり、お酒を飲んだりして楽しんでいただけでなく、堀川沿いにある典さんの実家に、典さんをエスコートして連れて行ってあげていました。同じ時代の「享元絵巻」によると、男社会のイメージの強い江戸時代に、かなりの数の女性がまち歩きを楽しんでいたことがわかります。



「享元絵巻(複製)」　「尾張名所図会」

朝日文左衛門の屋敷は、中級武士の屋敷が続く東区主税町筋の一角にありました。御畳奉行の職についていた文左衛門は、この屋敷から名古屋城へ登城していました。出仕以外の時間は、文化人の集いに通い、大須界隈では芝居を楽しみ、味鋺(北区)へは何度も釣りに出かけていました。

呉服店

Ⅲ 大丸呉服店

享保13年(1728)、本町通に出店しました。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

Ⅳ 十一屋呉服店

後の丸栄です。当初は本町通に店を構えていましたが、大正4年(1915)新たなメインストリートである広小路に移転しました。

Ⅱ いとう呉服店

後の松坂屋です。織田信長に仕えた伊藤蘭丸祐道が清須から移り、慶長16年(1611)に本町に開業しました。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)

碁盤割

碁盤割は、名古屋城下町の大きな特徴であり、東西に11列、南北に9列のブロックを基本としています。名古屋のまちは、戦争で大部分が焼失したため、戦災復興計画において、碁盤割地区は名古屋市の中心商業地区として道路の拡幅が行われましたが、碁盤割の街区は現在も受け継がれています。

「小治田之真清水」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

『本町通』とは…

本町通は、名古屋城の正門から南の熱田へと延びる、南北の幹線道路です。

『清須越』

慶長15年(1610)、名古屋城の築城開始に合わせ、清須の町が名古屋の城下町として移転してきました。当時の清須は、尾張最大の都市で、大勢の住民が居住し、寺社も数多く存在していましたが、そのほとんどすべてを名古屋へ大移動させました。これがいわゆる「清須越」です。

ぶらり本町通

名古屋城下町歴史散策マップ

名古屋城と本町通を中心とした城下町の祭り ～名古屋三大祭り～

名古屋城下では、主要な祭りとして、東照宮祭・三之丸天王祭・若宮祭が行われていました。それぞれの祭りでは、華やかな山車などで構成された祭礼行列が名古屋城三之丸に入ることができ、藩主の上覧を賜りました。さらには、庶民も祭礼行列に続いて、三之丸の東照宮や三之丸天王社へ参拝することができました。3つの祭りは庶民が城内へ入ることのできる機会であり、身分を超えて参加できる城下で最も賑わう行事でした。これらの祭りは形を変えつつ、現在に受け継がれています。

1 東照宮 東照宮祭

江戸時代、本町御門から本町通を南下して永広町の御旅所まで行列し、山車や風流で飾り尽くされた練り物が城下の町々から参加しました。しかし、第二次世界大戦による戦災で、東照宮の社殿とともに山車が焼失しました。

現在は、4月16日・17日に行われ、神事を中心とした行事となっています。

2 那古野神社 三之丸天王祭

天王社の天王祭は旧暦6月15日・16日に行われ、「車祭」とよばれる中世以来の山車形態で、格式ある祭車が曳き出されました。明治9年(1876)、三之丸天王社は、東照宮と同様に明倫堂跡地に遷座し、後に那古野神社へと改称されました。

現在は、那古野神社の祭礼として、7月15日・16日に行われ、本町通を南下して若宮八幡社まで進みます。

3 若宮八幡社 若宮祭

江戸時代の若宮祭は、三之丸天王祭と同じ旧暦6月15日・16日に行われ、16日には山車が三之丸まで曳行されました。第二次世界大戦による戦災で神社と山車のほとんどが焼失しましたが、福禄寿車と河水車のみ戦災を逃れました。

現在は、5月15日・16日に行われ、福禄寿車を曳き出し、神輿とともに、若宮八幡社から本町通を北上して那古野神社まで進みます。

本屋

名古屋は三都(江戸・京都・大坂)に遅れたものの、本を出版し販売する本屋が現れました。
また、本屋とともに城下に学問や文芸を浸透させたのが貸本屋です。

Ⅵ 貸本屋大惣

貸本屋大惣は、多くの本をそろえたことから、当時日本一の貸本屋と称され、江戸からも多くの人が本を探しに訪れました。また、文学者の坪内逍遥が頻繁に通ったといわれています。

「大惣貸本店図」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)

Ⅶ 永楽屋東四郎書店

名古屋の本屋の中で最も盛業を誇り、江戸にも出店し全国に名をとどろかせました。

四 風月堂書林

松尾芭蕉も訪れた、名古屋城下の代表的な書店です。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

六 札の辻

本町通と伝馬町筋が交差する地点で、高札が掲げられたことから、「札の辻」と呼ばれました。碁盤割の中心地であり、様々な街道の起点でした。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

五 桜天満宮

境内に桜の大樹があったため桜天満宮と呼ばれました。図絵の左上に、午後十二時に城下に時刻を知らせた「時の鐘」が描かれています。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

『尾張名所図会』から当時の町を想像して歩いてみませんか?

～『尾張名所図会』とは～

江戸時代の終わりごろに刊行された観光案内の本です。
神社仏閣、名勝、古跡、風俗、名物・名産などを絵入りで紹介したものです。
『小治田之真清水』という附録も作られるなど、ベストセラーとなりました。

三 茶屋四郎次郎邸

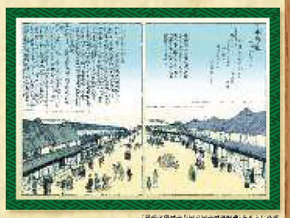
尾州茶屋家は、京都の豪商茶屋家の分家として創設され、尾張藩の呉服御用を独占していました。現在の中区丸の内二丁目付近は、江戸時代には茶屋町と呼ばれ、その名が町名となるほど優遇されていました。

この絵は、ベトナムから来た象が、江戸へ向かう途中、名古屋城下を通行した様子を描いたものです。後ろに描かれているのが尾州茶屋家の屋敷です。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

一 本町通

名古屋城と熱田を結ぶために造られた本町通の両側には、名古屋を代表する商家が店を並べていました。当時の本町通は、城下町のメインストリートとして大いに賑わっており、その様子は尾張名所図会や享元絵巻にも描かれています。



「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

二 東照宮祭

毎年4月に祭礼が行われます。当時は、近隣の町内から山車が出され、城下町で繰り広げられた最大の祭りでした。

「尾張名所図会」(名古屋市鶴舞中央図書館蔵)
※絵は原本を一部加工、着色しています。

Ⅰ 明倫堂

9代藩主宗睦が創設した尾張藩の藩校で、細井平洲が総裁を務めました。

Ⅴ 火の見櫓

札の辻近くには、高さ7間(約13m)の火の見櫓が立てられ、火事の際には板木や半鐘を打って知らせていました。

『碁盤割』

名古屋城は、逆三角形に細長く南北に延びる熱田台地の北西端部に築かれました。名古屋城の南に大きな城下町がつくられ、城下町の中央に近代都市名古屋の原型となる「碁盤割」の町割が形成されました。主に、碁盤割を中心に町人地、その周りに武家地、さらに外側には寺町が置かれました。

通り名の由来

① 京町通
清須越の町名のひとつです。京都から来た商人が多く移り住んでいたため、この名がつきました。

② 魚ノ棚通
魚を売る店が多く立地していました。「尾張名所図会」にもその賑わいぶりが描かれています。

③ 杉ノ町通
戦火で焼失する前にその地にあった金剛寺に、通り名の由来となった杉の大木が聳えていました。

④ 桜通
桜天満宮が通り名の由来です。天満宮境内には時の鐘がありました。

⑤ 伝馬町通
清洲越の町名の一つで、伝馬や人足による運送業務が行われていました。

⑥ 袋町通
清須の町名「袋の内」が通り名となり、袋物を扱う商人が多く住んでいました。

⑦ 本重町通
最初は鍋重町と呼ばれていましたが、後に5代将つなよし軍綱吉の養女鶴姫の名と重なるため、本重町と改めました。

名古屋市歴史まちづくりPRキャラクター

スマートフォンで地域を散策!

まち歩きアプリ

なごや歴史探検

「なごや歴史探検」は、名古屋市内の歴史に触れたり、文化資産や観光スポットを知ることができるスマートフォン用アプリ(iOS／Android 端末向け)です。

本アプリでは、テーマごとにおすすめスポットを巡ることができる「コース」機能、目的のポイントまでご案内する「ナビ」機能があります。

本町通についても、たくさんのコース・スポットがありますので、このアプリを持って、まちの新たな魅力を発見してみてください!

画面はイメージです。

インストールは
「AppStore」または
「Google play」から検索

無料　なごや歴史探検　検索

対応 OS バージョン
iPhone iOS14.0／Android バージョン8以降

■アプリ名称　なごや歴史探検
■アプリ製作　なごや歴史文化活用協議会
　　開発　ナカシャクリエイティブ株式会社
■問合せ　ns_support@nakasha.co.jp

■発　行　名古屋市歴史まちづくり推進室
　　(令和5年8月更新)
■監　修　名古屋大学名誉教授　溝口常俊
■問合せ　名古屋市歴史まちづくり推進室
　　〒460-8508
　　名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
　　TEL.052-972-2779　FAX.052-972-4128